

第 3 章 基本計画

．ものづくり [産業の振興]

1．現状と課題

(1) 中国横断自動車道尾道松江線の開通と産業への影響

中国横断自動車道尾道松江線は、平成20年代には三次市まで開通する予定となっている。これにより、山陽・関西方面との時間距離が大幅に短縮されることで雲南地域の産業に与える影響は極めて大きいと思われる。

中国横断自動車道尾道松江線の開通により期待される効果としては、農業分野においては交流人口の拡大がもたらす、産直施設、レストラン等への来訪者の増加による農産物の販路拡大、グリーンツーリズム等の都市農村交流の促進による農業・農村の活性化などが考えられる。

また、企業立地条件の向上、観光施設への入込み客の増加、さらに通勤・通学圏の拡大やU・Iターン者向け住宅の開発等による定住人口の増加も期待される。

その一方で、都市部への購買力の流出、国道54号を代表とする既存道路の交通量減少による地元商店等の衰退、圏域が通過点となることによる滞在型観光客や立ち寄り観光客の減少、さらには若者の都市部への人口流出の進行などが懸念されることから、プラス効果を最大限に引き出し、マイナス効果を最小限に抑えるための戦略的な施策展開を今から進めておく必要がある。

(2) 農林業

圏域は山間地から平坦地まで存在する地勢で条件不利地域を多く抱えており、水稻を中心とする小規模経営が主流である。農業従事者は高齢化しており、後継者不足に加え、有害鳥獣被害、農産物の輸入自由化、農産物価格の低迷等、農業を取り巻く厳しい状況の中で営農意欲が低下しているのが現状である。

こうした中、女性や高齢者を中心に農産物の直売や加工品製造等の取り組みが盛んに行われている地域もある。今後は、消費者の食の安全や食生活に対するニーズが高まっていることを踏まえ、農畜産物のPR活動や都市農村交流等を通じて安全・安心な農産物としての雲南ブランドのイメージアップを図りながら、積極的な生産・販売戦略を展開していくことが望まれる。

林業分野においては、農業と同じく林業従事者の高齢化、後継者不足の問題を抱え、さらには材木価格の低迷等により所有者の森林に対する施業意識が低下しつつあり、人工造林の管理放置等による山林の荒廃が進んでいる。

このような現状の中、産業資源としての森林から、国土保全やグリーンツーリズムの舞台としての役割といった、環境・景観としての森林に着目した森林の保全を図っていくことが課題となる。

(3) 地場産業・工業

圏域の一部地域で、誘致企業を中心とする工業集積、工場の拡張等が見られ、地域経済を支える担い手として、また、就業の場として大きな役割を担っている。

その一方で、公共事業の減少に伴い、土木・建設業を中心に大きな影響を受けている。圏域内の産業に占める土木・建設業等の比重は高く、今後さらに公共事業が縮小していけば深刻な事態になることが予想され、これらの企業は農業をはじめとした幅広い産業分野への新規参入

を図るなどの対応策をとっている。

今後は、このような動きを含めて多角化、起業化を図るなど、経済状況の変化に柔軟に対応していく必要がある。

(4) 商業

圏域内には、三刀屋木次インターチェンジ周辺の国道54号沿いに商業集積が見られるが、近年、近隣の都市部へ購買力が流出し、個人商店等の小売業の衰退が進んでいる。

前述のように、中国横断自動車道尾道松江線の開通により国道54号の交通量の変化が予想されるとともに、都市部への利便性が高まることによりさらなる購買力の流出も懸念されることから、将来を見据えた中長期的な対策を検討していく必要に迫られている。

(5) 就 労

景気回復により全体の雇用情勢が上向く一方、地域格差が鮮明になりつつあり、地域経済における産業構造、企業の合理化等により、依然として雇用情勢は厳しい状況にある。

さらに、「2007年問題」といわれる団塊の世代の退職が間近に迫っており、これが雇用面でどのような影響を及ぼすかを見極める必要がある。

2. 施策の基本的な方向

(1) 多面的な農林業の推進

農産物の販路拡大と都市農村交流の促進

中国横断自動車道尾道松江線開通のプラス効果として、交流人口の拡大が期待できる。「ゆうきの里 雲南」としての地域イメージを活用した積極的なPR展開により、産直施設等を通じた農産物の販路拡大、都市住民による農業体験等のグリーンツーリズムなど都市と農村の交流を促進する。

担い手の育成・確保

認定農業者、集落営農組織、法人等の担い手の育成・確保を図るため、農業基盤・施設整備の支援を行うとともに、農地の流動化・集約化を促し、生産規模の拡大を図る。

農地の保全

耕作放棄地の発生を防ぐため、集落営農や各種制度や事業(中山間地域等直接支払制度、農地・水・環境保全向上対策等)の導入により、地域ぐるみで農地の保全に努める。

多様な農畜産業の振興、農地の有効利用

高冷地野菜など地域特性を活かした米・野菜・果樹・花卉等の多様な農産物の生産振興を図るとともに、耕畜連携による飼料作物の生産、放牧の推進等など、農地の有効利用を図る。

環境保全型農業の推進

環境保全型農業の生産体制を確立し、消費者に顔の見える販売を通して、安心・安全で、おいしい雲南農産物のブランド化を図る。

地産地消の推進、高収益作物の開拓・導入、農業の6次産業化の促進

地産地消の推進、地域の特性を生かした高付加価値農産物、生産から加工・販売まで一貫した農業の6次産業化を促進し、魅力ある農業をめざす。

林地の適正な保育管理と森林空間の活用

林業の担い手の育成・確保、林道・作業道の整備等を図り、造林地の適正な保育管理に努めるとともに、森林資源の有効利用、森林空間の多様な活用を推進する。

中山間地域研究センターの活用

地域の活性化、まちづくりの促進及び農林業の振興を図るため、島根県中山間地域研究センターを積極的に活用する。

(2) 地場産業・商業の振興

中国横断自動車道尾道松江線開通を見越した産業戦略の構築

高速道の開通を見越した産業戦略を構築し、商工業への影響と対応策について検討する。

地域産品の積極的な情報発信

雲南地域の魅力ある地域産品について、各種フェアへの出店、インターネットのホームページ等により積極的に情報発信に努めるとともに、ITを利用した通信販売の実施など情報化社会に対応したビジネス機会の拡大に努める。

地域産品の販路拡大

圏域の特産品について、圏域内の観光施設や道の駅等を活用し販売促進に努め、また、各種イベントへの出店や都市部の店舗での定期的な販売等を通じ、販路の拡大に努める。

商工会機能の強化による地元商工業者の支援

各市町において、商工会の広域合併により商工会機能の強化を図り、地元商工業者に対する支援、経営改善等を促していく。

(3) 多様な就労形態の支援

新規雇用の創出

起業化支援、地場産業の育成、企業誘致の促進、さらには自治体の指定管理者制度、外部委託事業等による多様な就労の場の創出に努める。

・イメージづくり [観光の振興]

1 . 現状と課題

圏域は自然、歴史、文化など多くの観光資源に恵まれている。また、平成10年よりJR木次線においてトロッコ列車を季節運行し、沿線観光と関連づけて利用促進を図っている。

しかし、これらの地域資源を観光集客に十分活かしていきっていないのが現状であり、観光・レジャーのニーズが多様化している中で、圏域内の観光施設、道の駅、産直市など観光産業の連携を図り、来訪者に対し、雲南地域の様々な魅力に触れ感じていただける観光地づくりが課題となっている。また、体験型・滞在型観光メニューの開発や受け入れ体制の確立、経済効果を生み出す仕組みづくり、圏域の知名度向上のための一体的なPR活動等も積極的に推進していく必要がある。

最近、雲南を舞台とした映画の撮影も行われており、地域イメージを高める絶好の機会となっている。特に、中国横断自動車道尾道松江線の開通により交流人口の拡大が期待できることから、高速道路網の積極的な活用により山陽、四国、関西、九州方面からの誘客を図る観光振興策を検討していかなければならない。

2 . 施策の基本的な方向

(1) ふるさと資源を活用した雲南一体の広域観光振興

高速道の開通及び尾原ダム・志津見ダムの完成を見越した積極的な観光戦略の推進
高速道の開通及び尾原ダム・志津見ダムの完成を見越した観光戦略を構築し、雲南一体となった観光地づくりを推進する。

観光施設の連携、ルート化による広域観光振興策の推進

圏域内の既存観光施設間の連携、広域観光ルート化による集客力向上を図るため、行政、観光協会、関係団体等が強力に連携し、雲南一体となった広域観光振興策を推進する。

地域資源の活用と観光地の魅力創出

恵まれた自然、神話、食などを活かし、都市農村交流、グリーンツーリズムなど関係団体間の連携を図りながら、体験型観光メニューの開発等、目的地となる条件整備を行う。

観光情報の収集・提供・PRの推進

圏域の観光案内サービス、インターネット等による情報提供を充実し、圏域内の観光情報の収集・提供・PRに努める。

(2) 広域連携事業の推進

隣接する圏域との連携による一体的な観光事業の推進

雲南圏域を越えた連携事業として、松江、出雲、石見等、隣接する圏域との連携を図り、一体となった観光事業の展開を図る。特に、石見銀山遺跡の世界遺産登録に向け、関西、山陽、四国方面から東側の玄関口として連携を強めていく。

観光客誘客対策の取組み

広島県、岡山県をはじめ県外からの観光客誘致に取り組むとともに、外国人観光客の誘客対策を検討する。

(3) 情報発信による地域イメージの向上

メディアを通じた雲南地域情報の積極的な情報発信

雲南地域の魅力ある情報をマスコミ、インターネットなどあらゆるメディアを通じて積極的に情報発信していく。

雲南一体となったフェア等積極的なPR活動の継続

圏域1市2町が連携した観光パンフレットの作成や各種フェアの開催など、雲南一体となった積極的なPR活動を継続して展開する。

・安心づくり [環境・基盤整備]

1. 現状と課題

(1) 保健・医療

保健活動としては、各市町で健康相談、健康教育、健康診断等の事業に取り組んでいる。

また、圏域内には3つの公立病院をはじめ、公的診療機関、民間病院・医院、歯科医院があるが、地域医療の更なる充実を図るためには、医療施設・設備の整備や医療機関との広域的な連携等を推進していく必要がある。

(2) 介護保険

圏域では介護保険制度の創設に伴い広域連合を立ち上げ、雲南圏域による保険者の一本化を図り、介護保険の諸事務、認定審査の一元化等を行って、効率的な介護保険制度の運営に努めている。

全国的に少子高齢化が進む中、島根県は全国一の高齢県であり、なかでも雲南圏域1市2町は高齢化率が30%を超えている。さらには、団塊の世代が高齢期を迎えることから、高齢者人口、要介護認定者の大幅な増加が予想され、これまで以上に多様化したニーズへの対応が求められる。

今後、介護保険制度を安定した制度として維持していくため、高齢者ニーズに対応した介護サービスの提供、充実を図るとともに、構成市町と連携を一層強化し、地域支援事業の介護予防事業等を積極的に実施し、要介護認定者数の抑制、重度化の防止に努める必要がある。また、認知症高齢者への対応、地域の実情に応じた包括的な高齢者施策の展開、介護給付の適正化等が求められている。

(3) 福 祉

高齢者福祉の充実により、高齢者が安心して暮らせる環境が整備されつつある。今後は、高齢社会に対応し、介護予防等の保健・医療と連携した取組みに力を入れていく必要がある。

障害者福祉では、広域的な施設整備が進められているが、さらに、サービス体制の充実を図っていく必要がある。

また、母子・児童福祉においては、子育てに関するニーズの高まりから、各市町で多様な子育て支援策を展開している。

(4) 情報通信

圏域内全域でCATVが普及しており、このケーブル網を利用してテレビ放送をはじめ、音声告知放送、インターネットやIP電話といったサービスが提供されている。

また、高速・大容量の光ファイバー網を広域ネットワーク化することにより、地上デジタル放送への対応、CATVの制作番組の充実・効率化等を図っている。

今後は、住民の利便性向上、行政事務の効率化に向けて、電子自治体の推進が求められており、圏域住民の情報活用能力の向上が課題となっている。

(5) 交通

圏域内の道路は、国道54号、184号、314号、432号の4本の国道を骨格として、主要地方道・県道・広域農林道・市町道などの道路網がネットワーク化されている。

また、高速道路網としては、中国横断自動車道尾道松江線の三刀屋木次インターチェンジまでの間が平成15年3月に供用開始となり、残りの区間も新直轄方式により平成20年代に開通を予定している。

過疎化や交通環境の変化する中で、公共交通機関の運営・存続は厳しい現状に立たされていることから、生活路線バスにおいては、高齢者や子どもといった交通弱者の生活の利便性を確保しつつ、運行の効率化を進めていく必要がある。また、今後、高速道開通後の高速バスについて、運行ルートの変更も予想されることから、沿線の交通対策について検討する必要がある。

(6) 生活関連施設

各市町においては、定住条件の重要な要素として上下水道の整備率向上に努めているほか、公営住宅の整備・改修、宅地開発等により、定住促進を図っている。

今後人口の社会増加を図るためには、団塊の世代をはじめとするU・J・Iターン者の受け入れを積極的に推進していく必要があり、これらを踏まえた定住施策の取組みが求められている。

(7) 地域防災体制

近年、全国的に自然災害による被害が頻発しており、これらに備えた行政と事業者との連携によるライフラインの確保をはじめ、総合的な防災対策を検討する必要がある。

特に、圏域には山林に囲まれた急傾斜地が多く、土砂災害等の防止対策や監視体制の強化等が望まれる。

圏域の防災体制は、雲南消防本部と3消防署からなる常備消防体制と各市町で組織された非常備消防で構成され、災害時において常備消防と非常備消防との連携を図っている。消防組織法改正を受け、今後、地理的条件や管轄面積、地域の実情を勘案し、島根県内の消防の広域化について検討が行われるが、適正な組織体制について議論が進むことが期待される。

(8) 自然環境の保全

循環型社会の形成をめざして、リサイクル促進のための分別回収の徹底について啓発活動等を進め、環境問題に対する圏域住民の理解と意識の高揚を図る必要がある。

一方、自治体や民間企業においては、国際標準化機構が定める環境マネジメントシステム規格「ISO14001」の認証取得の気運が高まっており、効率的な省資源化、省エネルギーを促進していくことが求められている。

また、ごみ処理の体制や公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽等の污泥処理体制について、効率化を図るための広域的な取組みが望まれている。

2. 施策の基本的な方向

(1) 安らぎと安心のネットワークづくり

健康づくり活動の充実

生活習慣病をはじめとした疾病予防と早期発見のための各種保健活動を実施し、健康づくり活動を充実する。

医療機関の連携、医師等の確保による医療サービスの充実

圏域の医療機関の連携、医師等の確保により地域医療体制、医療サービスの充実を図る。

介護予防対策、効果的・効率的な介護サービスの提供・充実

高齢者の介護予防と自立生活の支援を行うとともに、高齢者ニーズに対応した介護サービスの提供・充実を図る。

介護保険事業の円滑な推進を図るために、次の項目を重点的に取り組んでいく。

介護サービス基盤の整備と充実

要介護状態を予防する施策の推進

在宅生活を可能にする施策の推進

認知症要介護者へのサービスの充実

サービスが円滑に提供できるための体制づくり

広域的視点での各種福祉サービス体制の充実

児童福祉、障害者福祉において、多様なニーズに対応できるよう、広域的な視点から各種サービス体制の充実を図る。

(2) 雲南をつなぐ情報網の構築

電子自治体の推進

住民サービスの向上、行政事務の効率化を図るため、電子自治体の取組みを推進する。

C A T Vの効率的な運営、内容の充実

圏域内のC A T Vのネットワーク化、連携により、引き続き運営の効率化、放送内容の充実等を図る。

地域の発信情報の充実

C A T Vやインターネット等により、地域情報等の受発信を促進し、地域内外への情報提供の充実を図る。

情報活用能力の向上

住民が情報サービスを楽しむことができるよう、情報活用能力の向上に努める。

光ファイバー網の多角的利用方策

広域介護保険事務システム用光ファイバー網の多角的利用方策を検討する。

(3) 雲南を結ぶ利便性・安全性の高い交通基盤の整備

関係市町との連携による幹線道路の整備促進

中国横断自動車道尾道松江線へのアクセス道路、市町を結ぶ道路、県境を越えて結ぶ道路など幹線道路の整備を関係市町と連携をとって促進する。

既存バス路線の存続、広域的なバス運行等による住民利便性の確保

既存バス路線の存続を図るとともに、広域的なバス運行等の公共交通機関について、住民の利便性を確保するため、関係市町と連携をとって対応する。

J R 木次線の利用促進

J R 木次線の利用促進、トロッコ列車の利活用及びその P R に努める。

(4) 快適な生活関連施設の整備

上下水道の整備率向上、公営住宅の整備促進

上下水道の整備率向上及び公営住宅の整備促進を図り、快適で住みよい生活環境づくりに努める。

(5) 地域防災体制の整備

常備消防と非常備消防との連携強化

災害時における常備消防と非常備消防との連携をより一層図るとともに、非常備消防体制の維持、人員確保に努める。

広域的な防災体制の確立、各市町と連携した雲南地域防災計画の策定

1 市 2 町をはじめ、近隣市町と連携した広域的な防災体制を確立するとともに、各市町の防災計画と連携した、雲南地域防災計画の策定を検討する。

治山・治水対策等の実施

治山・治水対策、急傾斜地崩壊防止対策の実施、監視体制の強化など、災害防止に向けた取組みに努める。

また、斐伊川神戸川治水対策として整備される尾原ダム・志津見ダムの早期完成を図る。

(6) 自然環境の保全

環境保全対策の実施

圏域の美しい自然、豊かな環境と景観を守るため、自然環境の保全、公害防止、廃棄物対策の実施に努める。

循環型社会の構築、新・省エネルギーの促進

廃棄物の減量化やリサイクルを行い循環型社会の構築に努めるとともに、新エネルギー、省エネルギーの促進等、積極的に環境対策に取り組む。

効率的な下水汚泥処理の推進

公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽等の汚泥処理について、環境保全やコスト縮減等の観点から、効率的な下水汚泥処理に向けた取組みに努める。

・人づくり [教育・文化の振興]

1. 現状と課題

(1) 学校教育

ゆとり教育の中で、自ら学び自ら考える「生きる力」の育成を目指しているが、圏域では、少子化による児童・生徒数の減少で、複式学級による授業や学校の統廃合化も一部で行われている。

また、近年、全国的に小学校の児童を狙った犯罪が多発し、圏域内でも不審者情報が寄せられるなど登下校時の子どもの安全が脅かされており、安心して学校に通えるよう対策が求められている。さらに、いじめ・不登校・虐待・自殺などの社会問題が増加しており、学校、地域社会、家庭における対応が必要である。

(2) 生涯学習

各市町において、公民館やコミュニティセンターを中心に各種講座や講演会、サークル活動など活発に生涯学習活動が実施されている。

今後は、各組織が広域的に連携し、活動・学習内容の充実を図っていく必要がある。

(3) 文化・芸術活動

圏域内には、古くから伝わる伝統行事や文化が多く残っているが、過疎・高齢化、後継者不足により、いかにしてこれらの伝統文化を保存・継承するかが課題となっている。

また、圏域内には多くの文化施設が整備されており、これらの文化施設を活用し、文化・芸術の鑑賞機会の拡大を図る必要がある。

(4) コミュニティ活動

各地域においては古くから集落内のつながりが強く、相互扶助の精神でコミュニティを維持してきたが、過疎化の進行により集落の人口が減少し、将来的にコミュニティの維持が困難な地域の発生が懸念される。

今後は、集落の再編等を視野に入れた、地域コミュニティの新たな仕組みづくりを検討していく必要がある。

(5) 研修・交流活動

住民ニーズの多様化、高度化、広域化等に伴い、行政職員の資質向上や地域を担う人材の育成が求められており、各種研修や啓発活動に積極的に取り組んでいく必要がある。

また、各市町において国際化の推進を図ってきているが、これらの事業の意義や目的を再確認し、地域住民、子どもたちの有意義な国際交流事業を継続していくことが望まれる。

2. 施策の基本的な方向

(1) 地域に根ざした学校教育の充実

特色ある教育活動、学校教育の充実

郷土に対して愛着と理解を深め、人と自然を大切にする豊かな人間性を培うため、地域に根ざした特色ある教育活動、学校教育の充実に努める。

児童・生徒の安全対策の充実

学校と地域が一体となり、登下校時を中心とした児童・生徒の安全対策を実施する。また、いじめ・不登校・虐待・自殺など子どもを取り巻く諸問題に対して、学校、地域社会、家庭が連携し、適切かつ迅速な対応に努める。

(2) 多様性に富んだ生涯学習活動の展開

生涯学習内容の充実、施設整備

学習ニーズが多様化する中、住民の学習意欲・活動意欲に応えられるよう、各種講座の共同開催などの広域的な連携等により学習内容の充実に努めるとともに、生涯学習の施設整備を図り、生涯楽しく学べる環境づくりを推進する。

(3) 特色ある文化・芸術活動の推進

地域文化の保存・伝承

映像や活字による記録、後継者の育成などを通して、伝統的な地域文化の保存・伝承に努める。

新しい文化の創造・芸術活動の推進

芸術活動、スポーツ振興、地域資源の活用等を通して、新しい地域文化の創造に努めるとともに、優れた文化・芸術を鑑賞できる機会の拡大を図る。

「雲南未来博物館」の活用

雲南地域の歴史や伝統文化等の資料をデジタル化して保存・整備した「雲南未来博物館」を、学校の授業や生涯学習の場で活用する。

(4) 心かようコミュニティ活動の推進

コミュニティ組織の維持・活性化

地域住民の自主的な活動を支援し、コミュニティ組織の維持・活性化を図るとともに、必要に応じて集落の再編等を検討していく。

人権尊重の社会づくりの推進

各種講演会や研修の開催等により人権教育を推進し、人権意識の高揚を図ることにより差別のない明るい社会づくりを進める。

男女共同参画社会の推進

男性と女性がパートナーシップを保ち、女性が社会活動へ積極的に参加できるよう、意識啓発の機会の拡充、体制整備などを通して男女共同参画社会づくりを進める。

(5) 地域を担う人材の育成

地域活動を担う人材の育成

地域づくりや地域活動を担う人材を育成するため、広域的な研修会（シンポジウム、地域づくりセミナー等）や講演会を開催するとともに、島根県中山間地域研究センターの活用等により、地域の活性化、地域づくりにつながる取組みを推進する。

高度化、専門化、広域化に対応する行政職員研修の実施

地方分権の進展や高度化、専門化、さらには広域化する行政に対応できるよう行政職員の研修を行い、資質の向上を図る。

国際化の推進

国際交流事業等を通して、語学習得意欲の醸成、異文化に対する理解や多文化の共生等の国際感覚を身に付けた人材の育成を図り、地域社会の国際化を推進する。

．広域活動計画

雲南地域全体としての広域的な振興事業等を実施するため、平成14年3月、「雲南地区ふるさと市町村圏振興事業基金」を設立した。

その果実を活用し、基本計画に沿ったソフト事業の展開により、圏域のより一体的な振興・発展を図っていく。

1. 果実の活用が見込まれる事業

(1) ものづくり

多面的な農林業の推進
地場産業・商業の振興

(2) イメージづくり

ふるさと資源を活用した雲南一体の広域観光振興
広域連携事業
情報発信による地域イメージの向上

(3) 安心づくり

雲南をつなぐ情報網の構築
雲南を結ぶ利便性・安全性の高い交通基盤の整備

(4) 人づくり

特色ある文化・芸術活動の推進
地域を担う人材の育成